

「市制施行10周年」を迎えて

～次なるステージ、ふるさと亀山の誇りを明日へ～



亀山市長 櫻井 義之

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、平成27年の輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、昨年は市政各般に温かいご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、関宿重伝建選定30周年記念事業をはじめとする「かめやま文化年・プロジェクト」がスタートし、暮らしのなかの文化を再発見するための多彩な事業を展開いたしました。一方、8月の台風11号の襲来により、三重県初となる大雨特別警報が発表され、少なからずの被災を経験いたしました。改めて、今後予想される南海トラフ巨大地震等の自然災害に対し、自助・共助を基軸とした「防災・減災体制」の強化が急務だと痛感する機会でもありました。

さて本年、本市は「市制施行10周年」の節目を迎えます。平成17年1月11日の新市合併以来、激動の流れのなかにはありましたが、多くの皆様のお力添えにより、新市の一体感の醸成と財政健全性を確保し、着実な歩みを刻んでまいりました。私たちは、この10年の歩みを礎に、少子超高齢社会の進展、災害に強いまちづくり、地域経済・雇用の活性化、今後一層の厳しい財政局面への備えなどの政策課題を克服するべく、「次なるステージ」へ、怯むことなき挑戦をしなければなりません。

これらを踏まえ、平成27年度は「後期基本計画・第2次実施計画」が始動する年であり、「都市の持続的成長」「市民の暮らしの質の向上」をめざして、亀山消防署・北東分署の開所、地域包括ケアシステムの構築、教育・子ども子育て支援事業の充実、マイナンバー（社会保障・税番号）制度の導入などの諸施策を果敢に推進いたしま

す。また、本市最大の強みは「市民力・地域力」に尽きますが、その基盤となりうる地域まちづくり協議会の設立支援にも重点的に取り組んでまいります。これらを通じ、5万市民の皆様の「愛着と誇り」そして「幸福実感」が高まり、そのことがまた世代を超えた市民協働の力となって「持続可能な地域社会」の創造につながると確信するものであります。

新市10年の節目となる希望に満ちた元旦を迎え、私は『小さくともキラリと輝くまち・亀山』の実現への決意を新たに、市職員一丸となって「明日」を切り拓いてまいりますので、市民の皆様方にはなお一層のご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

本年が皆様におかれまして、幸多く明るい年となりますことをお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。